金山町長期人口ビジョン

「地域の宝・金山の子どもたち」

令和７年３月改訂

（平成 27 年 10 月策定・令和２年３月改訂）

福島県金山町

【目次】

Ⅰ. はじめに 1

Ⅱ. 国の将来人口推計 2

1. 国の将来人口推移の分析 2

2. 人口減少がもたらす影響（国・県） 4

Ⅲ. 金山町の現状分析及び将来人口推計 6

1. 金山町の人口推移と分析 6

2. 将来人口推計のシミュレーション結果 17

3. 人口減少がもたらす影響と課題 18

Ⅳ. 金山町が目指す将来人口 19

「霧幻峡の渡し」

Ⅰ．はじめに

金山町は、江戸時代幕府直轄の「南山御蔵入地方」として独自の文化発展を遂げてきました。住民は主に農業を生業とし、「ゆい」(注)に代表されるように支え合いの精神で助け合いながら生活をしてきました。

昭和に入り、国の工業近代化に伴い電力需要が増大すると、町内でも只見川を中心とした電源開発が行われるとともに、鉱山の操業などで昭和30年代には人口が10,000人を超えました。しかし、発電用ダムの完成、鉱山の閉鎖などを契機に、人口は減少の一途をたどり、現在は全国トップクラスの高齢化率60.8%（令和6年8月1日現在）となっています。

少子高齢化による人口減少を背景に、金山町は平成27年10月に「金山町長期人口ビジョン」及び「金山町総合戦略」を策定し、令和2年3月に「金山町長期人口ビジョン」を改訂し「第2期金山町総合戦略」を策定し、取組を進めてきました。

そんな中、国では、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が、令和5年4月に「日本の将来推計人口（令和5年推計）」を発表し、令和5年12月に「デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023改訂版）」が閣議決定されました。また、令和6年10月に「新しい地方経済・生活環境創生本部」が発足され、新たな地方創生の動きが顕在化しつつあります。

将来推計人口は、「日本の総人口は、前回推計よりも人口減少の進行はわずかに緩和」と推計されています。この結果は、日本全体を見たときの結果であり、地域によって人口の「減少段階」は大きく異なり、我が町を含む過疎地域市町村では、人口減少の段階で特に年少人口や生産年齢人口での減少が顕著です。

これを受け、町でも昨今の変化を踏まえて「金山町長期人口ビジョン」を改訂します。

現状に即したデータを行政、町民、その他関係機関で共有し、人口減少問題とその解決に向けた施策を考え、共に取り組んでいく姿勢が大切であると考えます。

（注）ゆい：「結う」「共同」を表す言葉。昔から行われている労働交換の慣行。労力を提供することを「ゆいを貸す」、先方では「ゆいを借りる」という。

Ⅱ．国の将来人口推計

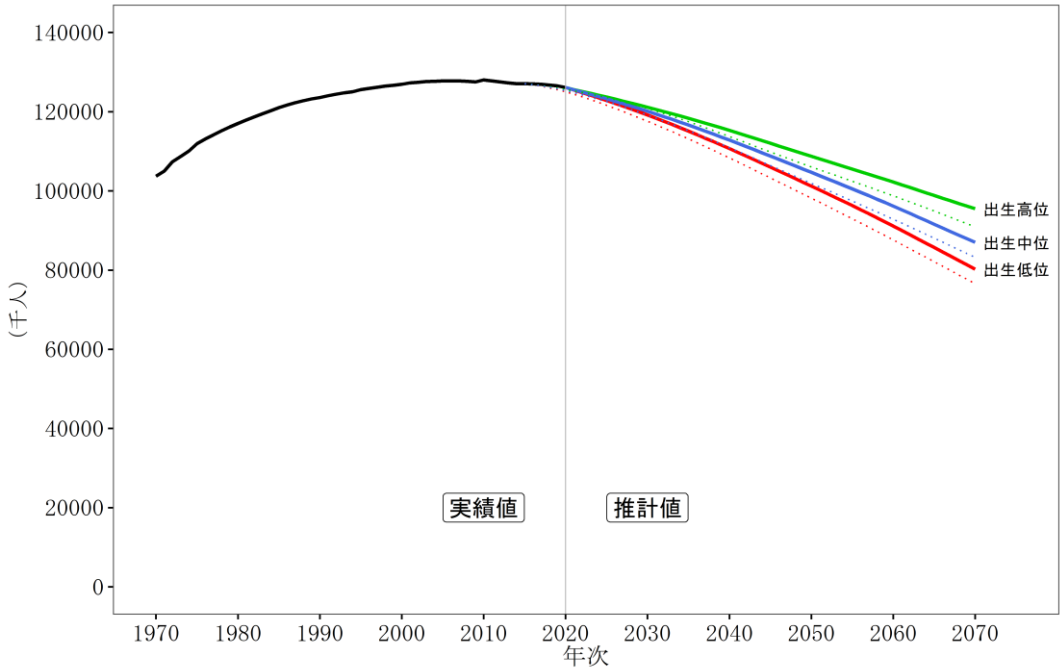
１.国の将来人口推移の分析

主な結果として、前回推計（平成 29 年）と比べ、将来の合計特殊出生率は低下、平均寿命はわずかな伸び、外国人の入国超過数は増加します。また、総人口は 50 年後に現在の 7 割に減少し、65 歳以上人口は約 4 割になるものと推計されます。

人口推計の出発点である令和２(2020)年の日本の総人口は同年の国勢調査によれば 1 億 2,615 万人でした。出生中位推計の結果に基づけば、この総人口は、以後長期の人口減少過程に入ります。2045 年の 1 億 880 万人を経て、2056 年には 1 億人を割って 9,965 万人となり、2070 年には 8,700 万人になるものと推計されます。前回の出生中位推計と 2065 年時点で比較すると、前回の 8,808 万人が今回は 9,159 万人となり 351 万人増加しており、人口が 1 億人を下回る年次は前回の 2053 年が 2056 年と 3 年遅くなっています。

また、年齢 3 区分別人口規模及び構成や人口ピラミッドの変化にも注視しておく必要があります。0～14 歳、15～65 歳人口が減少し、人口ピラミッドも現在のつぼ型が縮小し面積も狭くなる傾向がわかります。

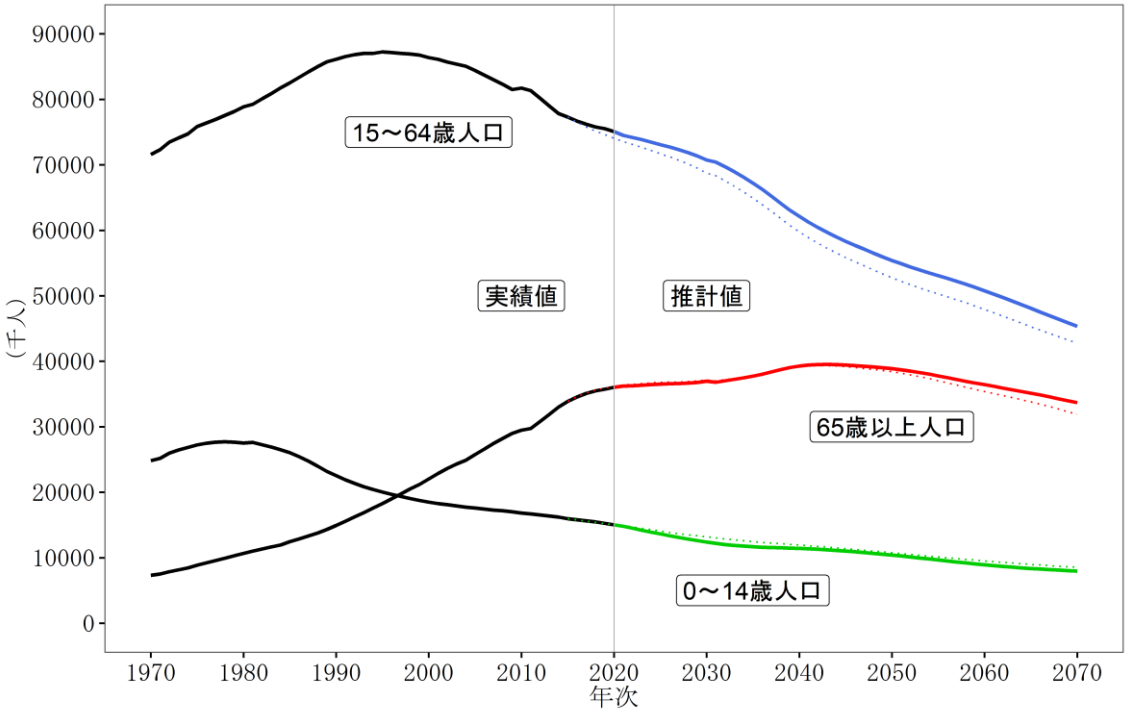
日本の総人口の推移〔出生中位・高位・低位（死亡中位）推計の結果〕



実線は今回推計、破線は前回推計。

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和５年度推計）」

年齢３区分別人口規模および構成の推移

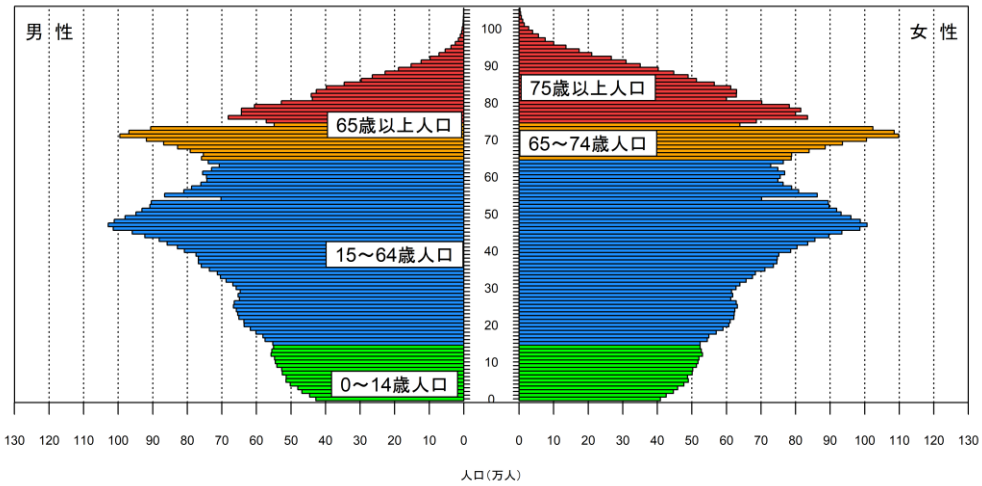


破線は前回中位推計。

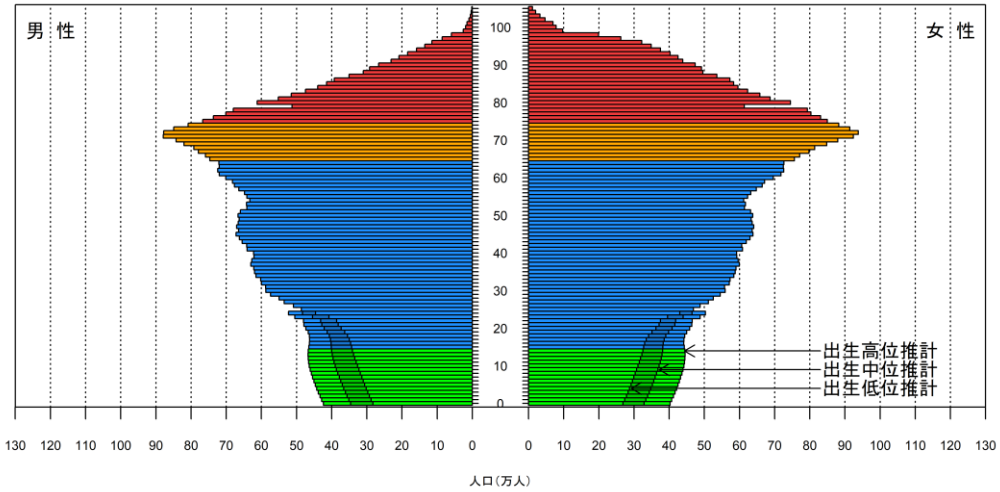
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和５年度推計）」

人口ピラミッドの変化

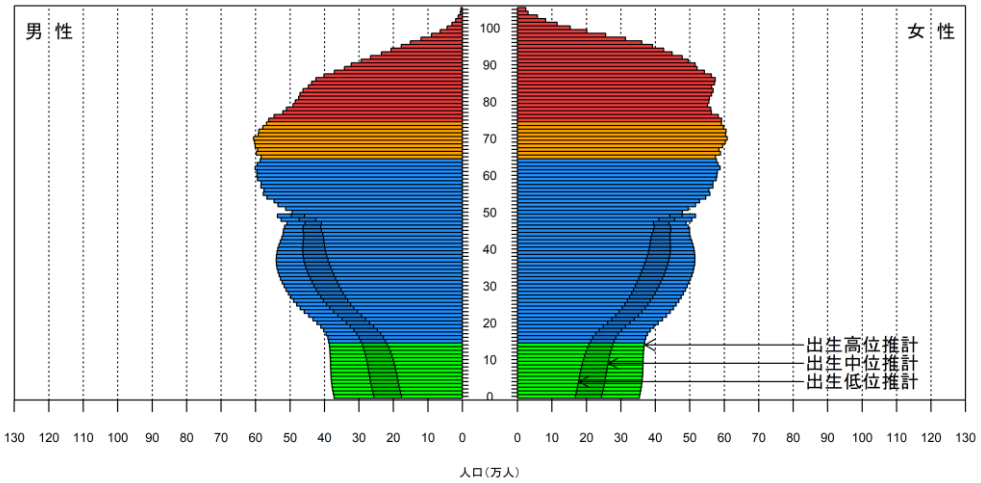
(1) 令 和 2(2020)年



(2) 令 和 27(2045)年



(3) 令 和 52(2070)年



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和５年度推計）

２. 人口減少がもたらす影響（国・県）

国は、人口減少がもたらす影響として経済面でのマイナスを挙げています。すなわち、人口減少は地域経済にとって、「消費市場の規模縮小だけでなく、深刻な人出不足を生み出しており、それゆえに事業の縮小を迫られるような状況も広範に生じつつある。こうした地域経済

の縮小は、住民の経済力低下につながり、地域社会の様々な基盤の維持を困難としている。」としています。

内閣府の報告によれば、人口減少・超高齢化の問題点を次の４点にまとめています。

１、経済規模の縮小

２、基礎自治体の担い手不足、東京圏の高齢化

３、社会保障制度と財政の持続可能性

４、理想の子ども数を持てない社会

出典：内閣府　選択する未来－人口推計から見えてくる未来像－「選択する未来」委員会報告

また、福島県では、「地域経済」に与える影響と「地域社会」与える影響の両面から課題があると挙げています。地域経済では、「人口減少や少子高齢化の進展により、就業者は更に減少すると想定され、人手不足が進み、さらに、消費者減少により消費市場が縮小するなど、経済の活力低下が懸念される。」としています。また、地域社会では、「子どもや若者の減少に伴い、学校や地域コミュニティの維持が難しくなるなど、医療・介護といった社会保障など様々な分野で従来の水準維持が困難となるおそれがある。」としています。

出典：福島県人口ビジョン（令和６年１２月更新）

Ⅲ．金山町の現状分析と将来人口推計

１．金山町の人口推移と分析

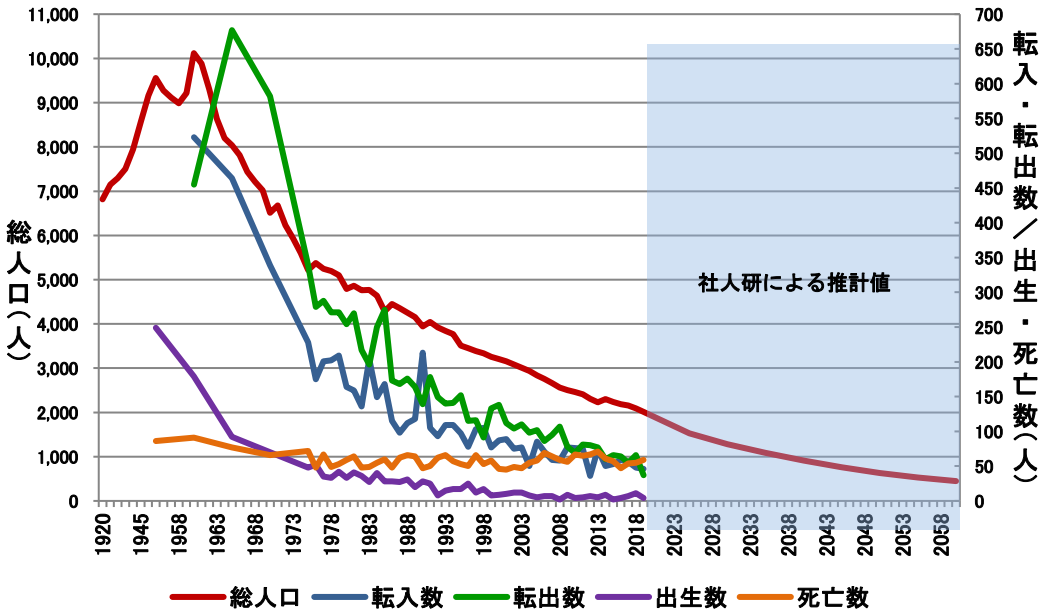
（1）過去の人口推移と要因

下図からわかるように、町の人口は 1960 年の 10,119 人（国勢調査）をピークに減少を続けています。特に 1960 年から 1970 年までの 10 年間は毎年平均して 5%程度の減少が続きました。例外的に人口が増加した年の前後には鉱山の操業開始や本名・上田発電所工事着工（1952 年）、滝発電所工事着工（1959 年）、「かねやまホーム」の開所（1990 年）の特徴的な出来事がありました。また、大きく減少した年の前後には、1969 年豪雨災害や 1971 年・1973 年の鉱山閉鎖などがあり、人口の動態に雇用機会等が関係していると推測されます。

自然増減では、1970 年以降、出生数が死亡数を下回る状態が続いています。特に 2004 年から 2017 年は出生数が 1 桁の状態が続き、死亡数は毎年 50～60 人程度で推移しました。2018 年度になると、出生数は 11 人と増加しましたが、死亡数も増加しており、楽観視はできません。

社会増減では、1960 年は転入数が転出数を上回る状態でしたが、以降、例外はあるものの、転入数が転出数を下回る状態が続いています。近年はその差が小さくなっていますが、依然として転出超過が多い傾向です。

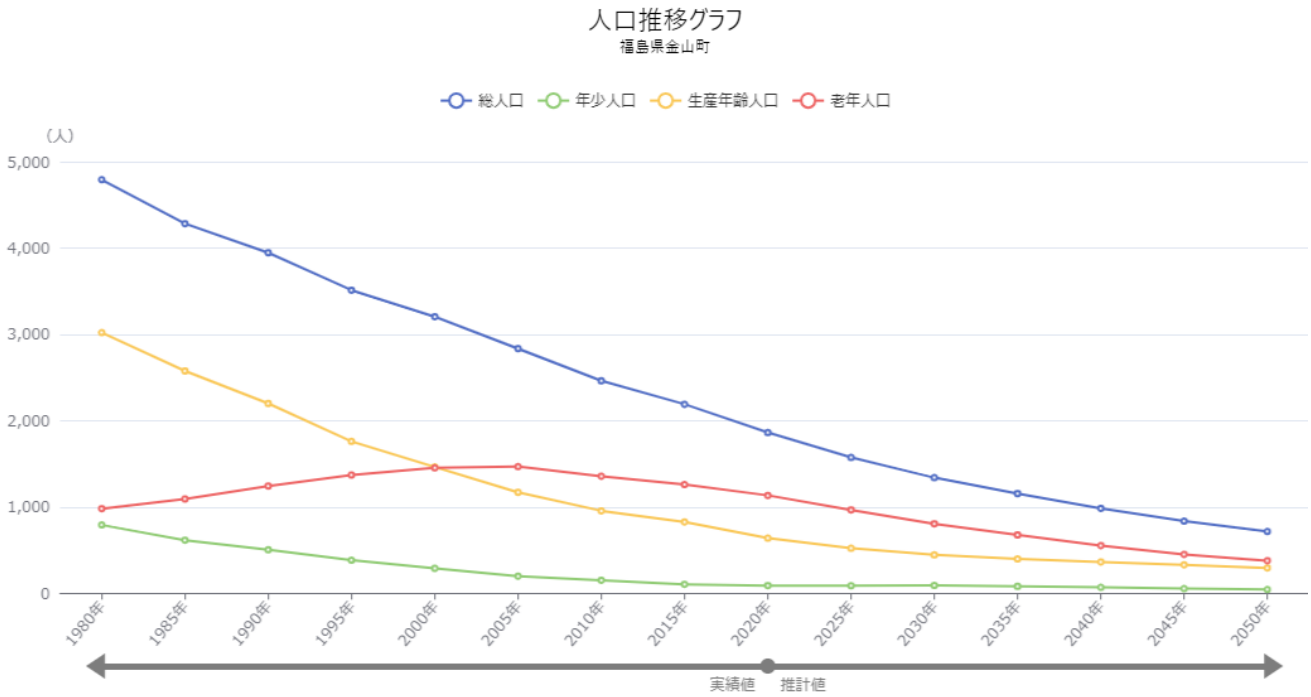
町の人口が大きく減少した要因は、転出超過による社会減と出生数に対して死亡数が多い自然減が長期間大きな差で続いた結果と言えます。



出典：福島県「福島県推計人口」/総務省「国勢調査」/金山町「住民基本台帳」/社人研推計

（2）人口推移と将来人口推計（年齢 3 区分）

下図では、1980 年以降 2020 年までの実績値と 2021 年以降 2050 年までの推計値を、総人口と年齢 3 区分ごとに示しています。減少率の鈍化は見込まれますが、2040 年には総人口で 1,000 人を割る予測となっています。高齢化率は、低減する見込みはあるものの依然として 50%を超える状況です。将来的には、年齢３区分ごとの構成バランスは改善傾向にありますが、人口減少と超高齢化の問題点が今よりも顕在化する懸念があります。

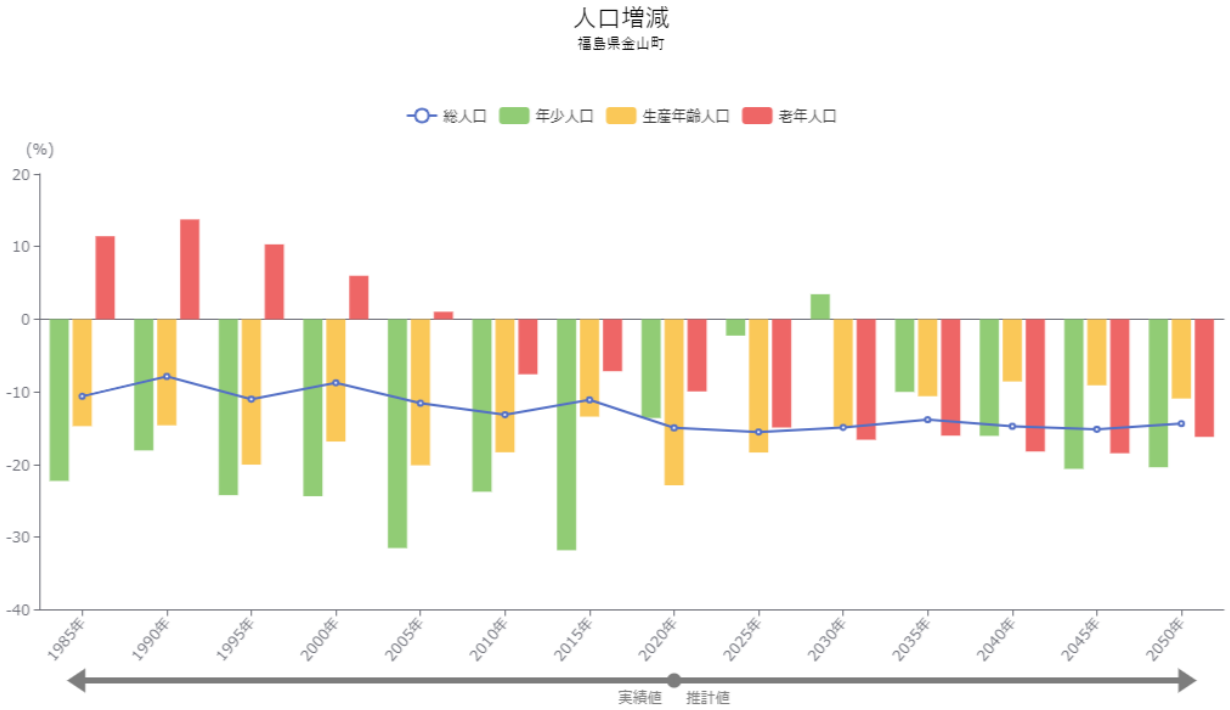


【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

集計年（年）	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
	実績値									推計値					
総人口（人）	4,790	4,282	3,945	3,511	3,204	2,834	2,462	2,189	1,862	1,573	1,339	1,154	984	835	715
年少人口（人）	791	615	504	382	289	198	151	103	89	87	90	81	68	54	43
生産年齢人口（人）	3,019	2,575	2,199	1,759	1,463	1,169	955	827	639	521	444	397	363	330	294
老年人口（人）	980	1,092	1,242	1,370	1,452	1,467	1,356	1,259	1,134	965	805	676	553	451	378
年少人口割合（%）	16.5	14.4	12.8	10.9	9.0	7.0	6.1	4.7	4.8	5.5	6.7	7.0	6.9	6.5	6.0
生産年齢人口割合（%）	63.0	60.1	55.7	50.1	45.7	41.2	38.8	37.8	34.3	33.1	33.2	34.4	36.9	39.5	41.1
老年人口割合（%）	20.5	25.5	31.5	39.0	45.3	51.8	55.1	57.5	60.9	61.3	60.1	58.6	56.2	54.0	52.9

（3）年齢３区分ごとの人口増減率

下図により、年齢３区分ごとの人口増減率をデータで見ると、年少人口は一時的に減少傾向が収まる推計ですが、これは近年の動向により社人研推計に反映したものと考えられます。その後は再度減少傾向に転じます。生産年齢人口は今までも減少傾向に引き続き、これからも一定程度の減少が続くことが予想されます。また、老年人口は 2005 年頃を境に増加傾向が一転して減少傾向となりました。今後も減少率の増加が見込まれます。総人口では、年齢３区分を総合して△15%～△10%程度の減少が継続的に続いていきます。

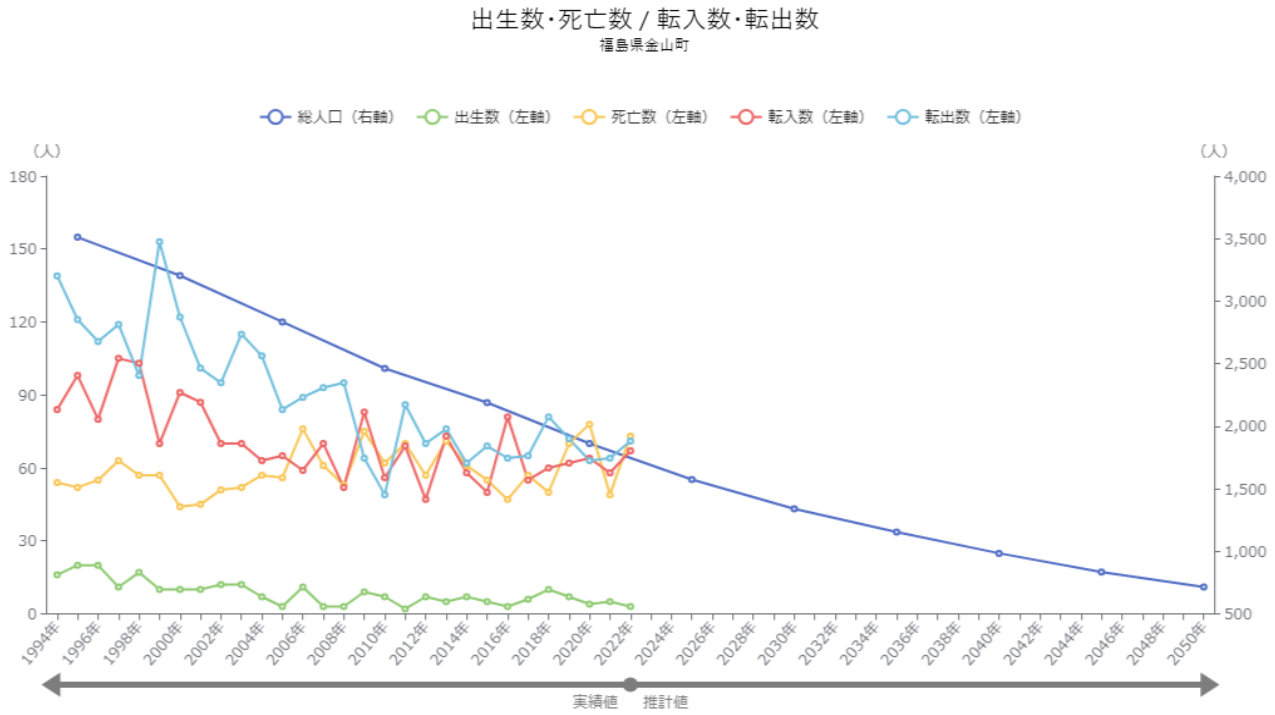


【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。
人口増減率＝（Ａ－Ｂ）÷Ｂ
Ａ：表示年を指定するで指定した年の人口
Ｂ：Ａの5年前の人口

集計年	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
	実績値								推計値					
総人口増減率	-0.11	-0.08	-0.11	-0.09	-0.12	-0.13	-0.11	-0.15	-0.16	-0.15	-0.14	-0.15	-0.15	-0.14
年少人口増減率	-0.22	-0.18	-0.24	-0.24	-0.31	-0.24	-0.32	-0.14	-0.02	0.03	-0.10	-0.16	-0.21	-0.20
生産年齢人口増減率	-0.15	-0.15	-0.20	-0.17	-0.20	-0.18	-0.13	-0.23	-0.18	-0.15	-0.11	-0.09	-0.09	-0.11
老年人口増減率	0.11	0.14	0.10	0.06	0.01	-0.08	-0.07	-0.10	-0.15	-0.17	-0.16	-0.18	-0.18	-0.16
総人口（該当年）	4,282	3,945	3,511	3,204	2,834	2,462	2,189	1,862	1,573	1,339	1,154	984	835	715
年少人口（該当年）	615	504	382	289	198	151	103	89	87	90	81	68	54	43
生産年齢人口（該当年）	2,575	2,199	1,759	1,463	1,169	955	827	638	521	444	397	363	330	294
老年人口（該当年）	1,092	1,242	1,370	1,452	1,467	1,356	1,259	1,134	965	805	676	553	451	378
総人口（比較対象年）	4,790	4,282	3,945	3,511	3,204	2,834	2,462	2,189	1,862	1,573	1,339	1,154	984	835
年少人口（比較対象年）	791	615	504	382	289	198	151	103	89	87	90	81	68	54
生産年齢人口（比較対象年）	3,019	2,575	2,199	1,759	1,463	1,169	955	827	638	521	444	397	363	330
老年人口（比較対象年）	980	1,092	1,242	1,370	1,452	1,467	1,356	1,259	1,134	965	805	676	553	451

（4）社会増減（転入転出数）・自然増減（出生死亡数）ごとの人口数

下図は、2022 年までの出生数・死亡者数と転入数・転出数の実績と今後の総人口の推計を照らし合わせたものです。出生数は 2004 年から概ね 1 桁台で推移しています。転入数は微減傾向、転出数は減少傾向、死亡数は微増傾向にあります。



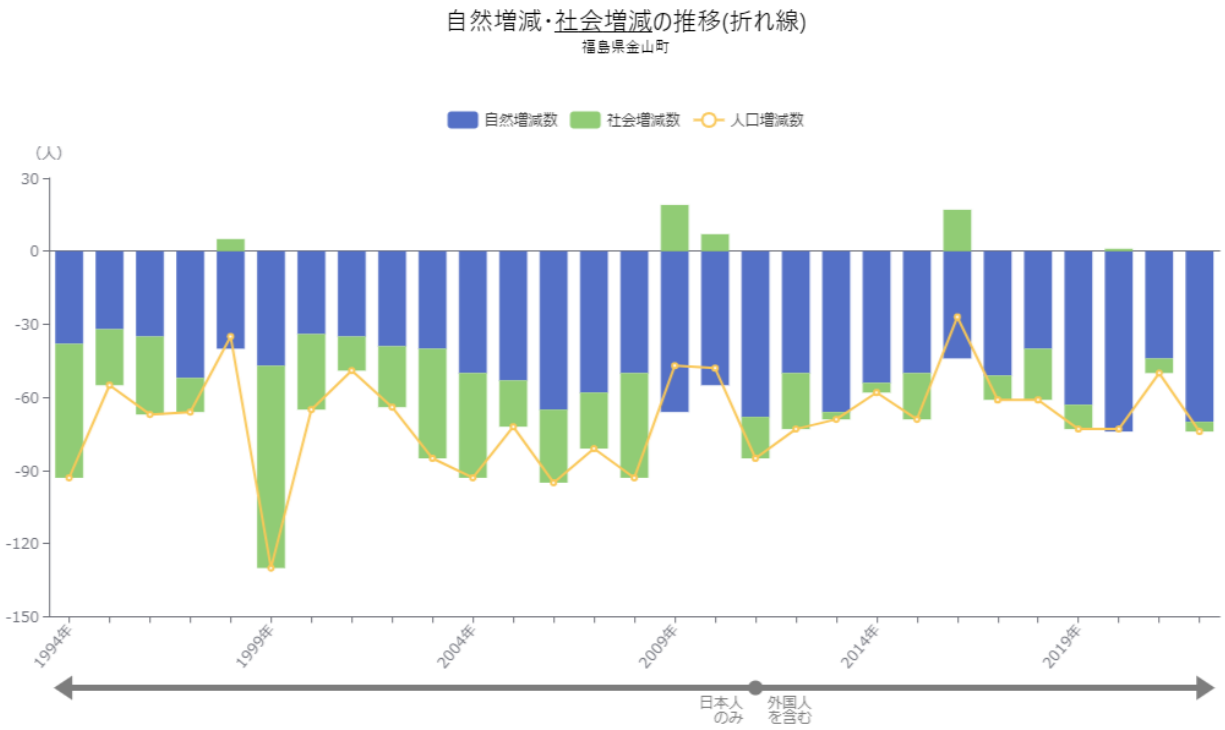
【出典】
総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」
【注記】
2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。
人口増減率＝（Ａ－Ｂ）÷Ｂ
Ａ：表示年を指定するで指定した年の人口
Ｂ：Ａの5年前の人口
2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。出生数・死亡数・転入数・転出数は2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。
本グラフについては他地域を合算することはできない。

集計年	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
	実績値																	
総人口		3,511					3,204					2,834					2,462	
転入数	84	98	80	105	103	70	91	87	70	70	63	65	59	70	52	83	56	69
転出数	139	121	112	119	98	153	122	101	95	115	106	84	89	93	95	64	49	86
出生数	16	20	20	11	17	10	10	10	12	12	7	3	11	3	3	9	7	2
死亡数	54	52	55	63	57	57	44	45	51	52	57	56	76	61	53	75	62	70

集計年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2025	2030	2035	2040	2045	2050
	実績値											推計値					
総人口				2,189					1,862			1,573	1,339	1,154	984	835	715
転入数	47	73	58	50	81	55	60	62	64	58	67						
転出数	70	76	62	69	64	65	81	72	63	64	71						
出生数	7	5	7	5	3	6	10	7	4	5	3						
死亡数	57	71	61	55	47	57	50	70	78	49	73						

（5）自然増減・社会増減の推移

下図は、自然増減と社会増減の推移をグラフ化したものです。社会増減においてはいくつかの年で増加に転じています。自然増減については、出生数に比して死亡数が多数であるため、全ての年で減少しています。



【出典】
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
【注記】
2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

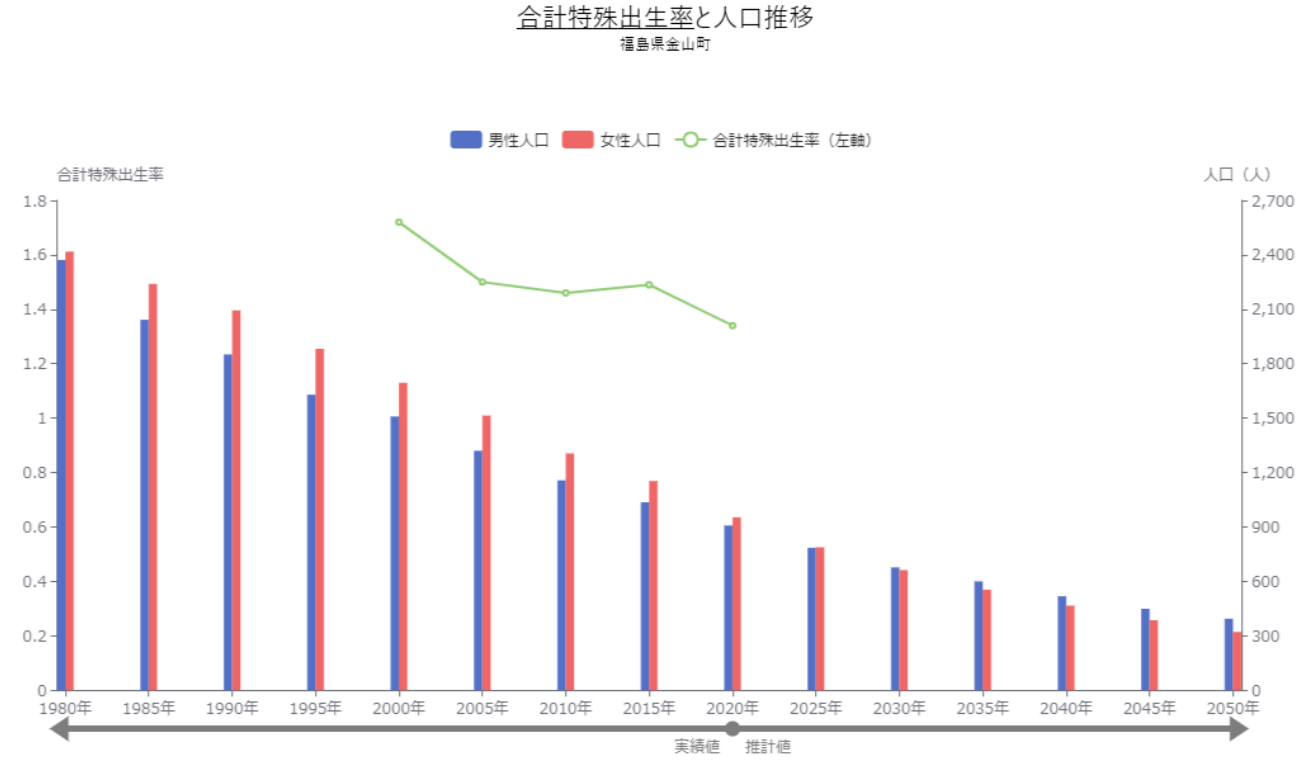
集計年	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
自然増加数	-38	-32	-35	-52	-40	-47	-34	-35	-39	-40	-50	-53	-65	-58	-50
社会増加数	-55	-23	-32	-14	5	-83	-31	-14	-25	-45	-43	-19	-30	-23	-43
人口増加数	-93	-55	-67	-66	-35	-130	-65	-49	-64	-85	-93	-72	-95	-81	-93

集計年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
自然増加数	-66	-55	-68	-50	-66	-54	-50	-44	-51	-40	-63	-74	-44	-70
社会増加数	19	7	-17	-23	-3	-4	-19	17	-10	-21	-10	1	-6	-4
人口増加数	-47	-48	-85	-73	-69	-58	-69	-27	-61	-61	-73	-73	-50	-74

（6）合計特殊出生率と男女別人口推移

下図は、近年の合計特殊出生率（注）と男女別人口推移を示したものです。近年の合計特殊出生率は、低減傾向で 2020 年では 1.34 となっています。福島県では 1.39、全国では 1.33 となっております。

男女別人口では、今までは女性の方が多かったのが、2025 年にはほぼ同数となり、2030 年以降は、男性の方が多くなる逆転現象が見られます。



【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

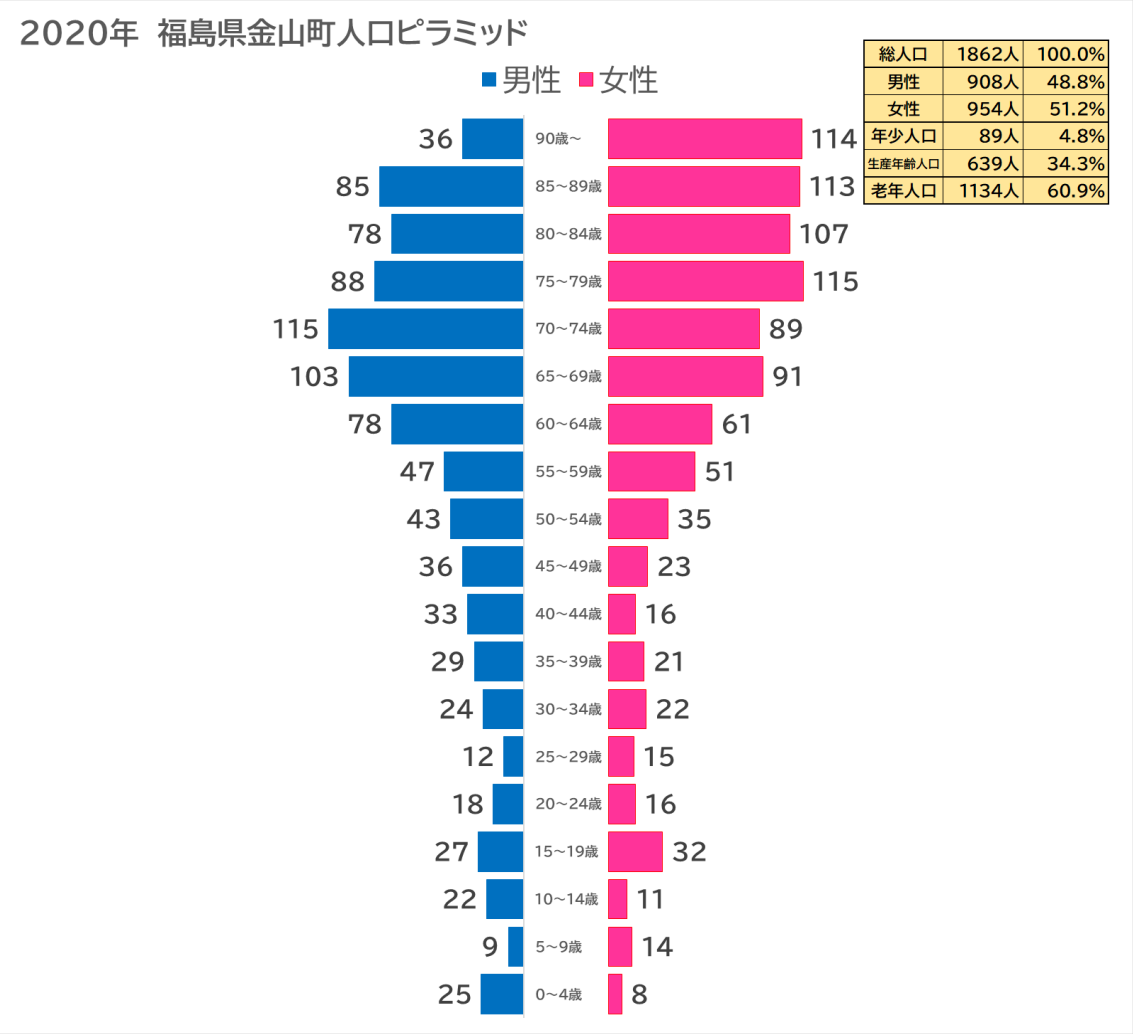
集計年	2000	2005	2010	2015	2020
集計年範囲	1998-2002	2003-2007	2008-2012	2013-2017	2018-2022
合計特殊出生率	**1.72**	**1.50**	**1.46**	**1.49**	**1.34**

（注）合計特殊出生率…一人の女性が一生の間に出産する子供の人数。15～49 歳までの全女性の年齢別出生率を合計した人口統計の指標。

表示年（単位:人）	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
	実績									推計					
男性	2,372	2,042	1,851	1,629	1,509	1,320	1,157	1,036	908	785	677	600	518	449	394
女性	2,418	2,240	2,094	1,882	1,695	1,514	1,305	1,153	954	788	662	554	466	386	321
総人口	4,790	4,282	3,945	3,511	3,204	2,834	2,462	2,189	1,862	1,573	1,339	1,154	984	835	715

（7）人口ピラミッド

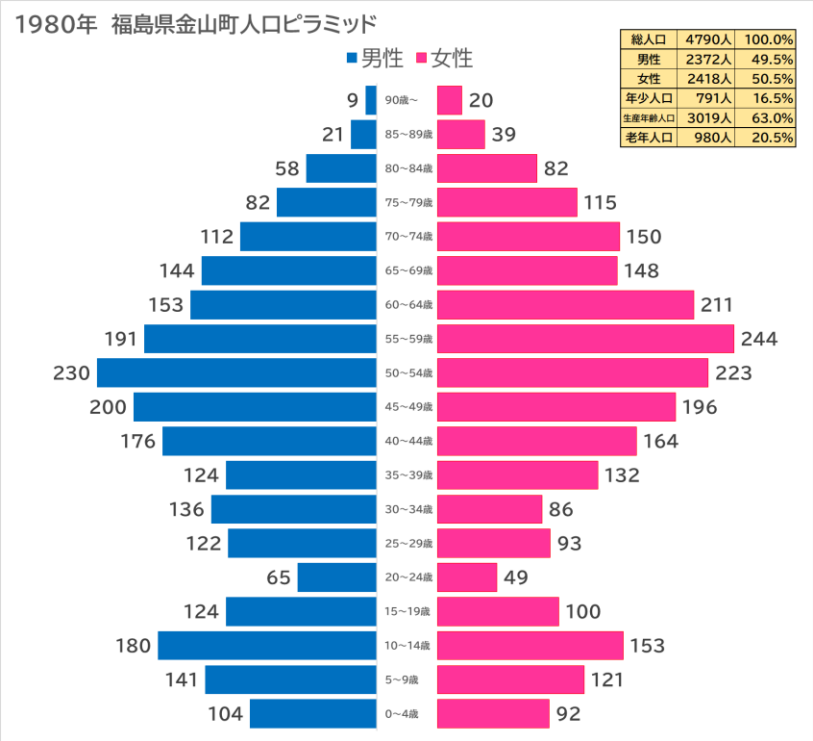
以下の図で、町の人口構成を人口ピラミッドで示します。直近の国勢調査のデータを基にしたもので、現状に一番近いものです。2020 年の金山町の人口ピラミッドは、0 歳～29 歳までの年齢階層は、少数です。15 歳～19 歳の年齢階層が比較的多いのは、県立川口高校の生徒を町外から募集しており、地域みらい留学や地域コミュニティスクール、町営寮の運営などの事業の効果と思われます。30 歳～69 歳の階層で徐々に多くなり、75 歳～90 歳以上の階層も構成割合が高い状況です。「逆富士山型」「漏斗型」とでもいうべき形でしょうか、人口減少・少子高齢・若者流出を縮図化したような形です。

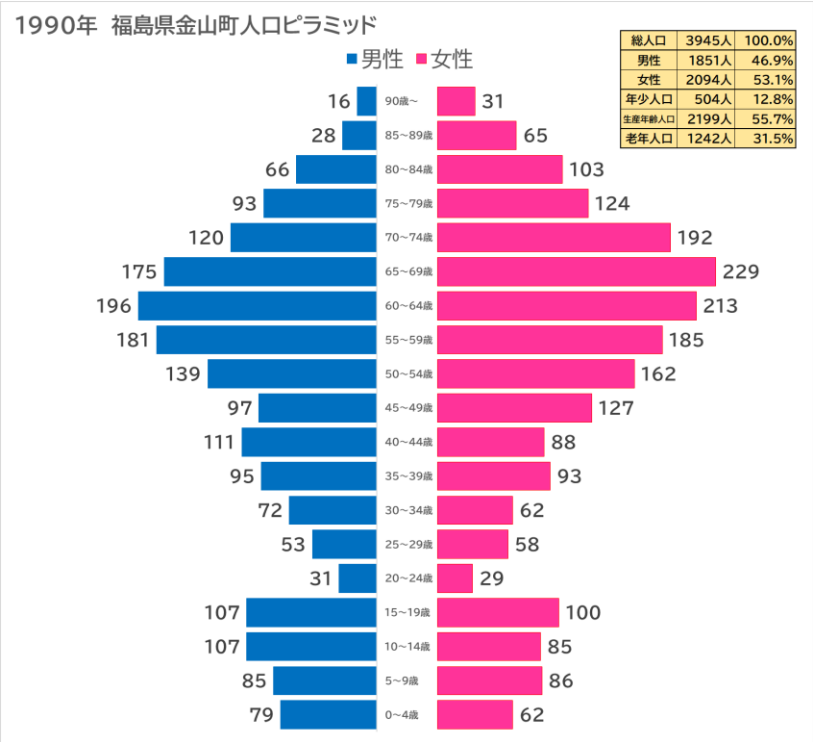


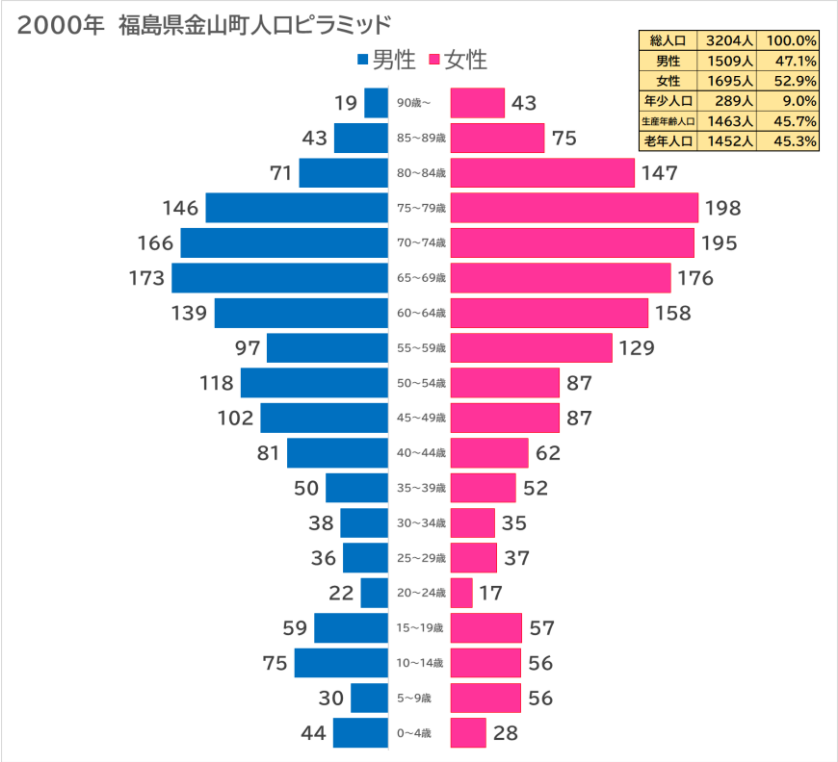
総人口	1862人	100.0%
男性	908人	48.8%
女性	954人	51.2%
年少人口	89人	4.8%
生産年齢人口	639人	34.3%
老年人口	1134人	60.9%

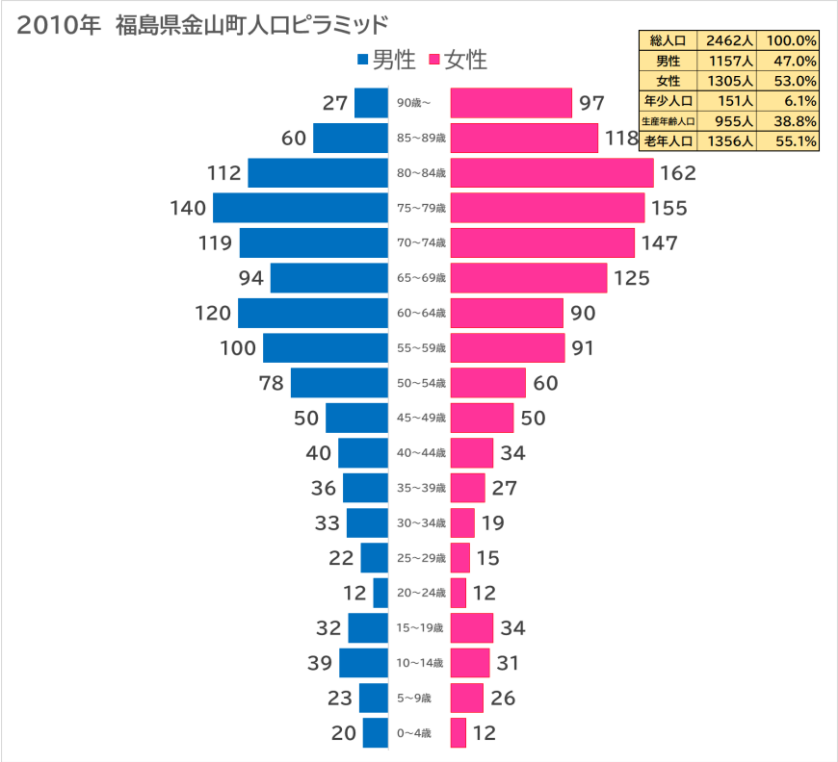
過去の人口ピラミッド（実績）

1980 年頃は、特に 20 歳～24 歳階層の若者が少ない「釣鐘型」となっています。経過とともに高齢者層が多くなり、出生の減や若者の流出が顕在化してきます。



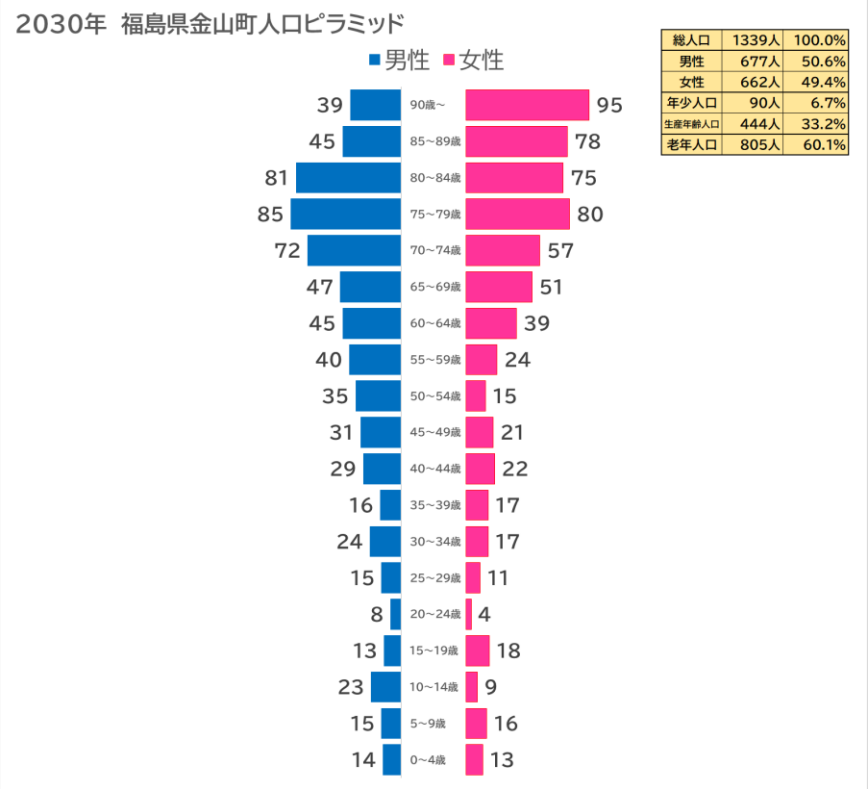



2000年 福島県金山町人口ピラミッド
男性 女性
総人口 3204人 100.0%
男性 1509人 47.1%
女性 1695人 52.9%
年少人口 289人 9.0%
生産年齢人口 1463人 45.7%
老年人口 1452人 45.3%
90歳～ 19 43
85～89歳 43 75
80～84歳 71 147
75～79歳 146 198
70～74歳 166 195
65～69歳 173 176
60～64歳 139 158
55～59歳 97 129
50～54歳 118 87
45～49歳 102 87
40～44歳 81 62
35～39歳 50 52
30～34歳 38 35
25～29歳 36 37
20～24歳 22 17
15～19歳 59 57
10～14歳 75 56
5～9歳 30 56
0～4歳 44 28

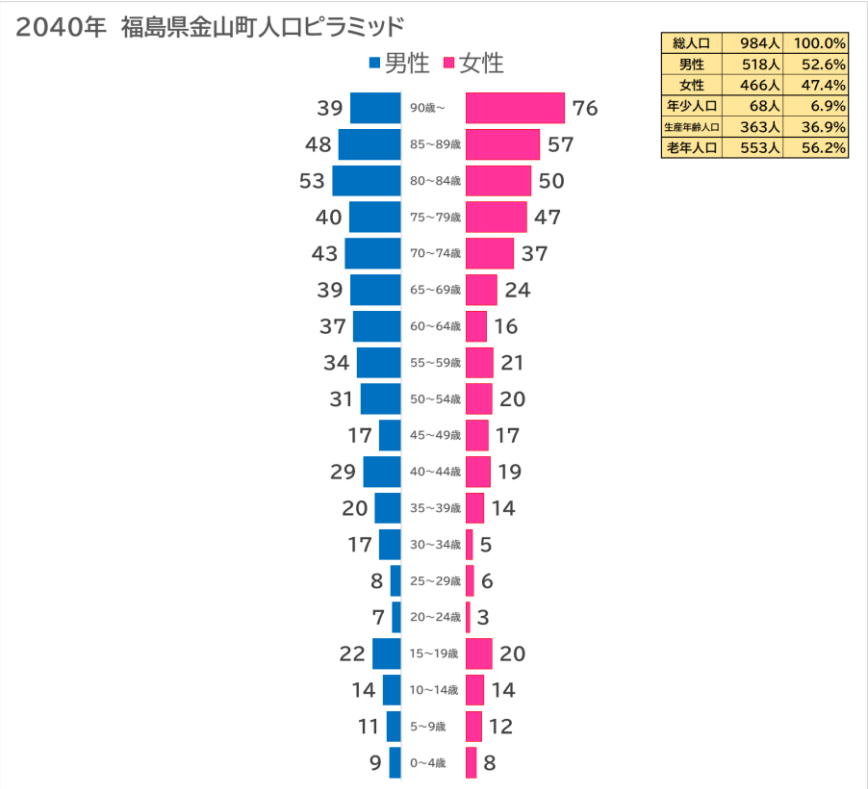

2010年 福島県金山町人口ピラミッド
男性 女性
総人口 2462人 100.0%
男性 1157人 47.0%
女性 1305人 53.0%
年少人口 151人 6.1%
生産年齢人口 955人 38.8%
老年人口 1356人 55.1%
90歳～ 27 97
85～89歳 60 118
80～84歳 112 162
75～79歳 140 155
70～74歳 119 147
65～69歳 94 125
60～64歳 120 90
55～59歳 100 91
50～54歳 78 60
45～49歳 50 50
40～44歳 40 34
35～39歳 36 27
30～34歳 33 19
25～29歳 22 15
20～24歳 12 12
15～19歳 32 34
10～14歳 39 31
5～9歳 23 26
0～4歳 20 12

今後の人口ピラミッド（推計）

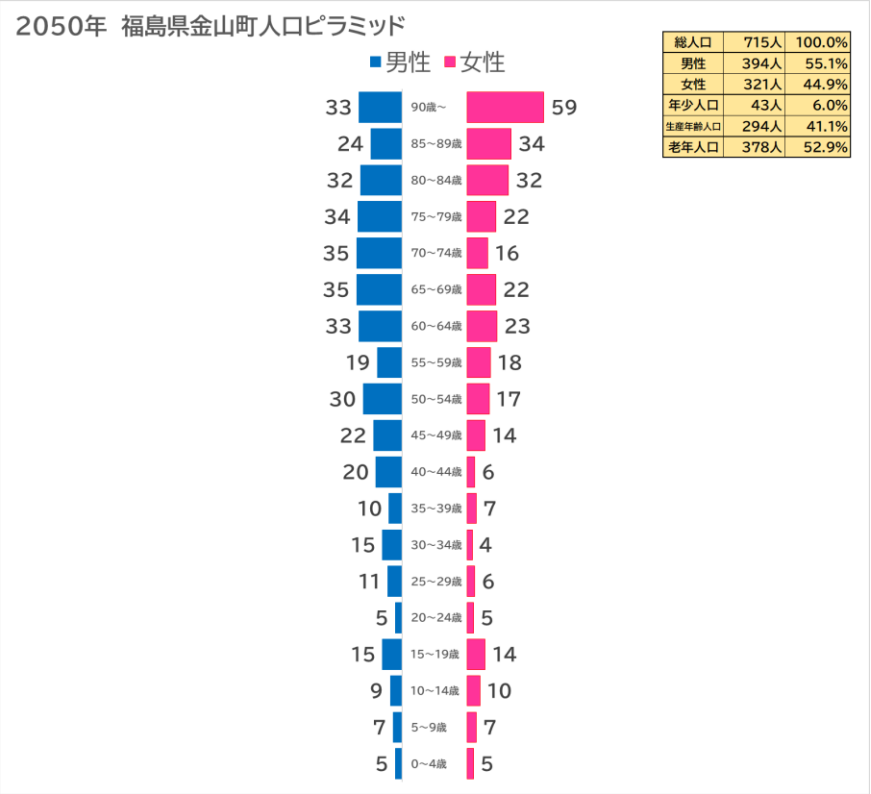
今後は、いわゆる「逆富士山型」「漏斗型」が小さくなっていく傾向で、ある意味人口バランスの改善は見られますが、絶対的な人口減少は歯止めの利かない状況です。特に将来的な懸念としては、生産年齢人口の若年層である、20 歳～49 歳までの階層の割合が少ないこと、特に、女性の割合が全体に比して極端に少ないことです。



総人口	1339人	100.0%
男性	677人	50.6%
女性	662人	49.4%
年少人口	90人	6.7%
生産年齢人口	444人	33.2%
老年人口	805人	60.1%



総人口	984人	100.0%
男性	518人	52.6%
女性	466人	47.4%
年少人口	68人	6.9%
生産年齢人口	363人	36.9%
老年人口	553人	56.2%



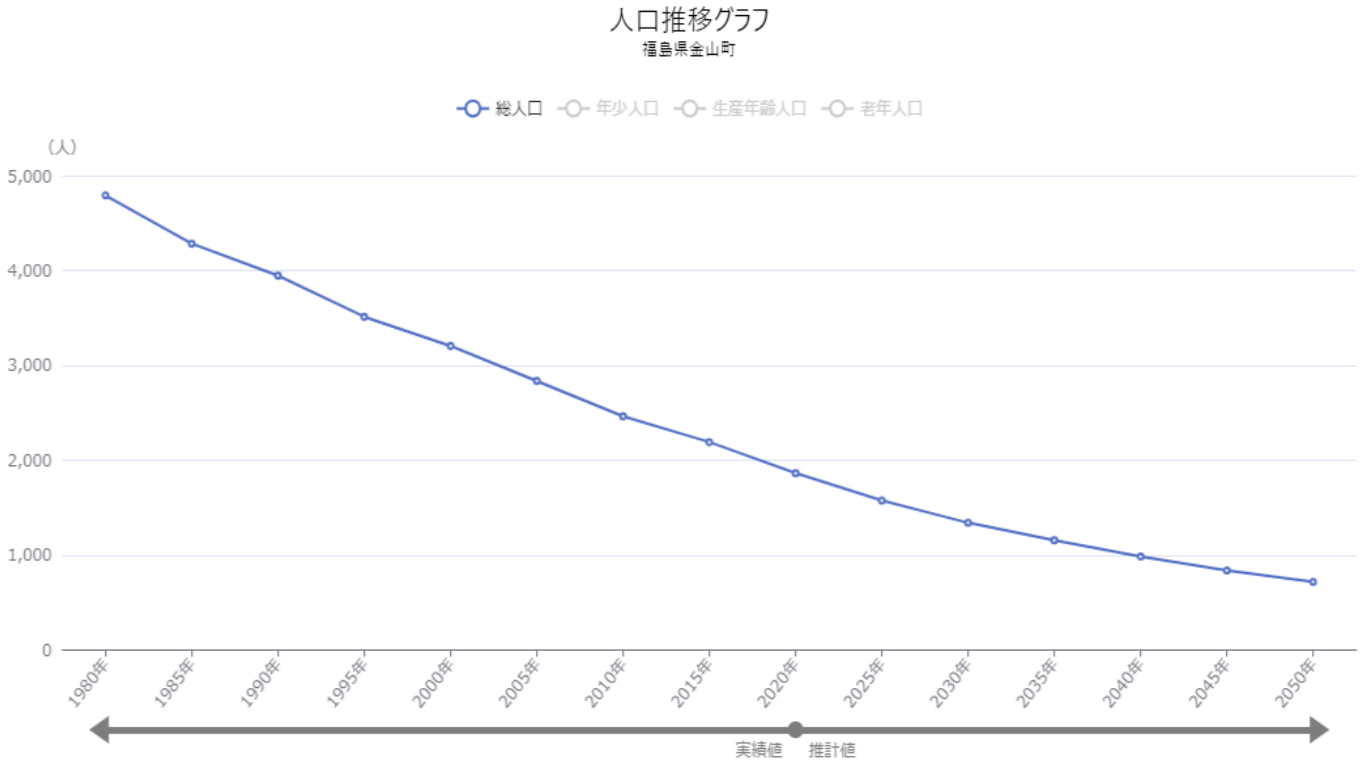
人口ピラミッドの基礎データ

集計年	1980		1990		2000		2010		2020		2030		2040		2050	
	実績										推計					
男女区分	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
90～歳の人口	9	20	16	31	19	43	27	97	36	114	39	95	39	76	33	59
85～89歳の人口	21	39	28	65	43	75	60	118	85	113	45	78	48	57	24	34
80～84歳の人口	58	82	66	103	71	147	112	162	78	107	81	75	53	50	32	32
75～79歳の人口	82	115	93	124	146	198	140	155	88	115	85	80	40	47	34	22
70～74歳の人口	112	150	120	192	166	195	119	147	115	89	72	57	43	37	35	16
65～69歳の人口	144	148	175	229	173	176	94	125	103	91	47	51	39	24	35	22
60～64歳の人口	153	211	196	213	139	158	120	90	78	61	45	39	37	16	33	23
55～59歳の人口	191	244	181	185	97	129	100	91	47	51	40	24	34	21	19	18
50～54歳の人口	230	223	139	162	118	87	78	60	43	35	35	15	31	20	30	17
45～49歳の人口	200	196	97	127	102	87	50	50	36	23	31	21	17	17	22	14
40～44歳の人口	176	164	111	88	81	62	40	34	33	16	29	22	29	19	20	6
35～39歳の人口	124	132	95	93	50	52	36	27	29	21	16	17	20	14	10	7
30～34歳の人口	136	86	72	62	38	35	33	19	24	22	24	17	17	5	15	4
25～29歳の人口	122	93	53	58	36	37	22	15	12	15	15	11	8	6	11	6
20～24歳の人口	65	49	31	29	22	17	12	12	18	16	8	4	7	3	5	5
15～19歳の人口	124	100	107	100	59	57	32	34	27	32	13	18	22	20	15	14
10～14歳の人口	180	153	107	85	75	56	39	31	22	11	23	9	14	14	9	10
05～09歳の人口	141	121	85	86	30	56	23	26	9	14	15	16	11	12	7	7
00～04歳の人口	104	92	79	62	44	28	20	12	25	8	14	13	9	8	5	5
男女別合計	2,372	2,418	1,851	2,094	1,509	1,695	1,157	1,305	908	954	677	662	518	466	394	321
総計	4,790		3,945		3,204		2,462		1,862		1,339		984		715	

２．将来人口推計のシミュレーション結果

社人研で推計した方法に準拠し、町の将来人口をシミュレーションすると、下図のようになり、このままでは今後ますます人口減少が進み、町の総人口は 2025 年に 1,573 人、2030 年に 1,339 人、2035 年に 1,154 人、2040 年に 984 人、2045 年に 835 人、2050 年に 715 人となる結果が出ました。

これはあくまでシミュレーションであり、必要以上に悲観的になる必要はありませんが、町にとって重要な意味を持つ数字であると考えます。



【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】
2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。

集計年	（年）	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
		実績									推計					
総人口	（人）	4,790	4,282	3,945	3,511	3,204	2,834	2,462	2,189	1,862	1,573	1,339	1,154	984	835	715

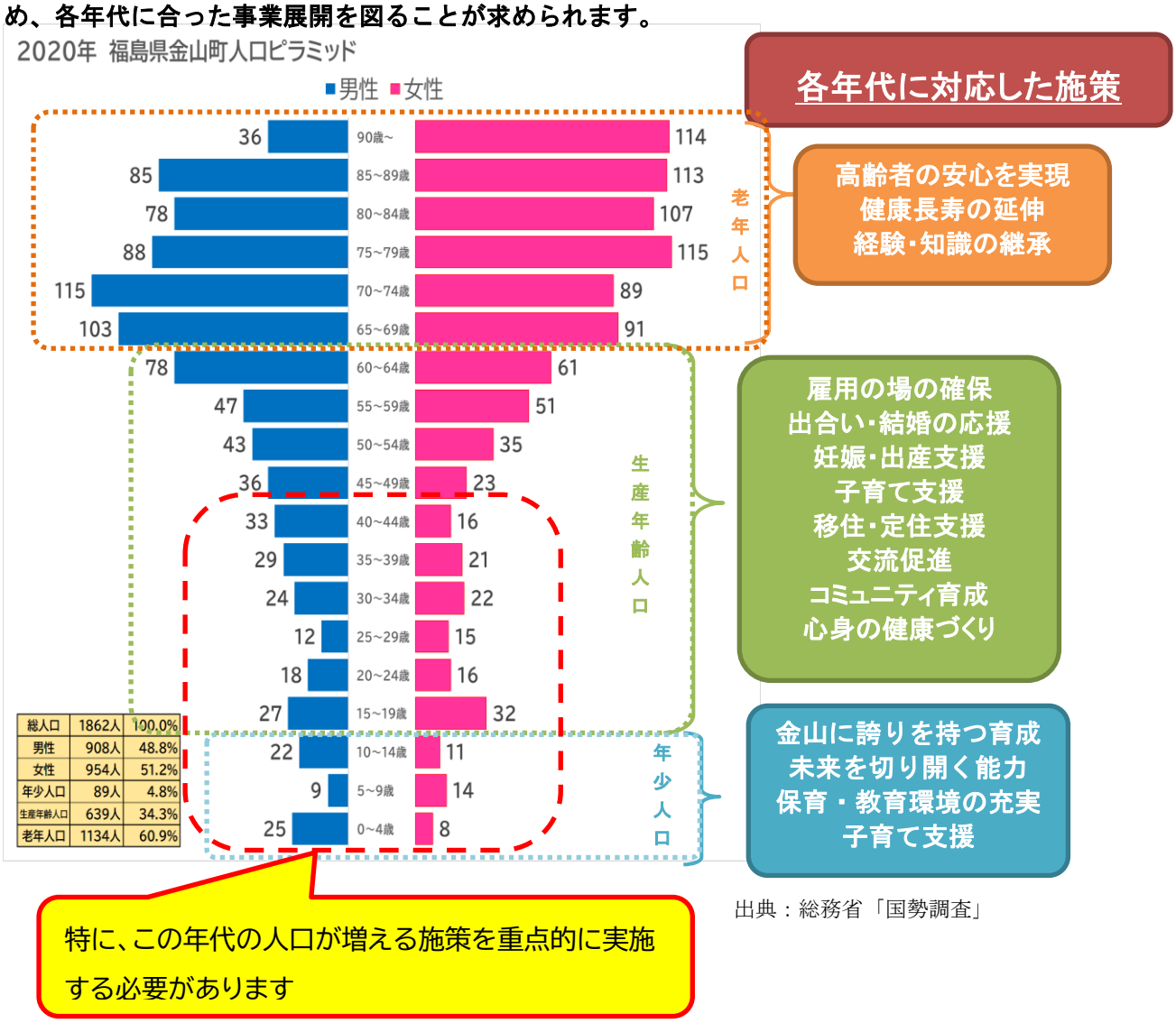
参考：過去の人口ビジョンにおける社人研推計との比較　（単位：人）

策定年　＼　年	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050
平成27年10月策定	2,462	2,123	1,803	1,524	1,283	1,085	913		
令和2年3月改訂	2,462	2,189	1,871	1,596	1,358	1,156	984	837	
今回改訂	2,462	2,189	1,862	1,573	1,339	1,154	984	835	715

３．人口減少がもたらす影響と課題

少子高齢化による人口減少が進むと集落機能の維持、学校教育環境、さらには町全体の規模縮小により、経済面への影響はもとより、公共サービスの提供など、自治体機能にも大きな影響を及ぼします。

現在、金山町では、人口減少の影響により「医療・福祉・教育サービスへの不安」、「商店の減少」、「空き家の増加」、「コミュニティ機能の弱体化」、「担い手や後継者の不足」、「就業者数の減少」等のさまざまな課題に直面しています。人口減少を最小限に食い止め、これらの課題解決に限られた財源や人材でより効果的な対策に取り組むため、各年代に合った事業展開を図ることが求められます。



総人口	1862人	100.0%
男性	908人	48.8%
女性	954人	51.2%
年少人口	89人	4.8%
生産年齢人口	639人	34.3%
老年人口	1134人	60.9%

出典：総務省「国勢調査」

Ⅳ．金山町が目指す将来人口

社人研の推計に準拠した計算によると、町の総人口は今後減少し続け、2030 年には 1,341 人、2040 年は 982 人、2050 年には 714 人になるとしています。

今後町として、推計される人口減少を抑えるため、段階的に出生率の向上、社会減の抑制を図り、生産年齢人口・年少人口の割合を高める施策を展開した上で、下表のとおり目標を定めます。また、特に若い世代の生産年齢人口を安定的に確保することで、将来にわたって、1,000 人程度の規模の人口維持が可能となります。1,000 人の町民による継続的で持続可能な町づくりを目指します。

町が目指す人口の将来展望	
目標年度	2050 年
人口目標	1,000 人程度
合計特殊出生率	1.8
年間出生者数	8 人以上
社会増減	±0 人
15～44 歳までの人口純増数	6 人/年

高齢化率の高い本町においては、今後も一定程度の自然減は避けられない状況です。1,000 人の町づくりにおいては、平成 27 年策定、令和 2 年改訂の人口ビジョンを踏襲しながら、目標年度を延伸したものです。近隣自治体や全国的な小規模自治体を見ても、人口 1,000 人程度で魅力的な活力ある自治体は存在しますので、それらを目標としながら長期的な町づくりに取り組みます。

合計特殊出生率は、子育てしやすい環境を作り上げ、2000 年頃の数値を回復することを目標とするものです。

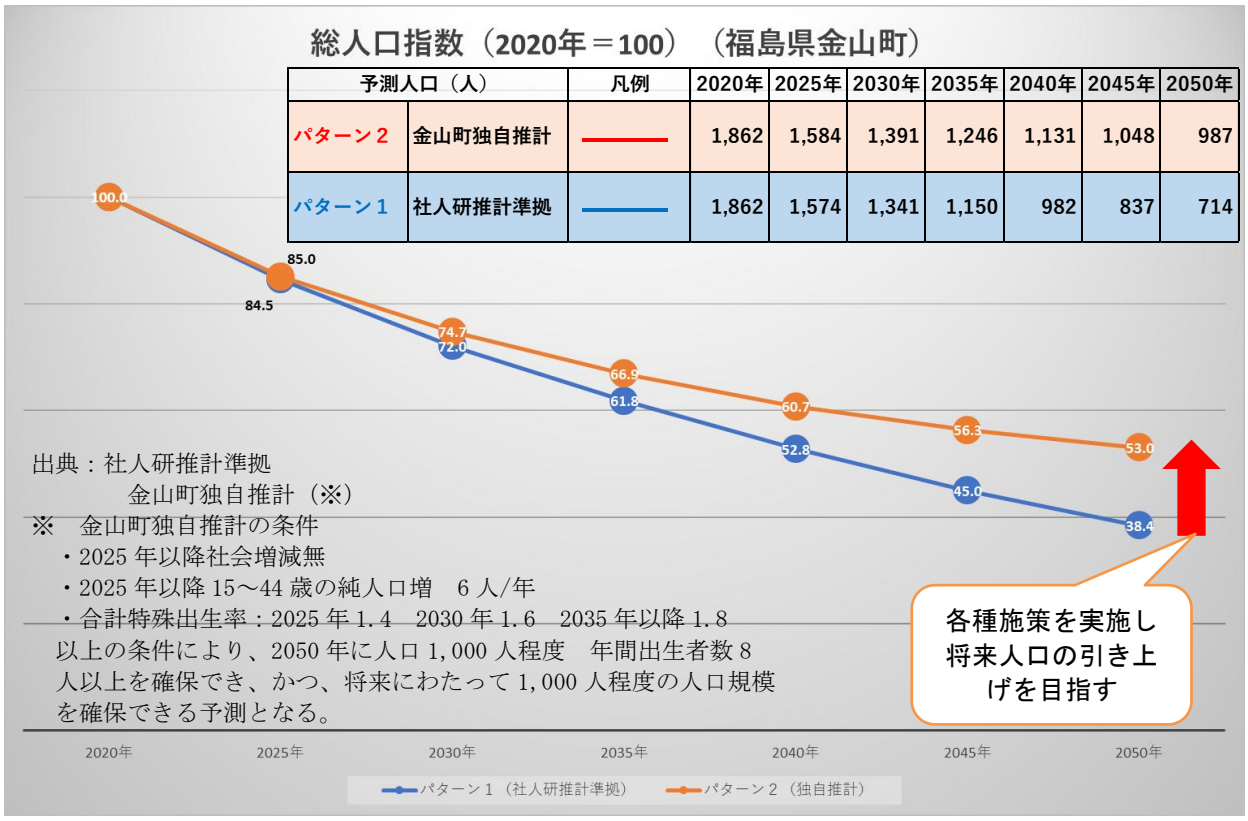
年間の出生者数は、今後の保育行政や教育行政において、子どもの社会性の育成や教育環境を鑑みて目標とするものです。なお、義務教育においては、１学年の人数が８人以上であれば、単式学級基準をクリアする人数となります。

社会増減については、近年においては増加に転じている年が見られますが、まだ、平均すれば減少の年が多い状況です。交流人口・関係人口を増やし、町の魅力を磨き上げ移住・定住施策の充実を図り、安定的に社会増に転じた町を目指すものです。

15 歳～44 歳までの人口純増については、現在、今後の町の人口構成を予測したときに最も力を入れて政策を実施しなければならない年齢層と考えています。この年齢層の人口増を目指すことで、将来 1,000 人の町づくりにおいてバランスのいい安定的な人口構成が見込めます。

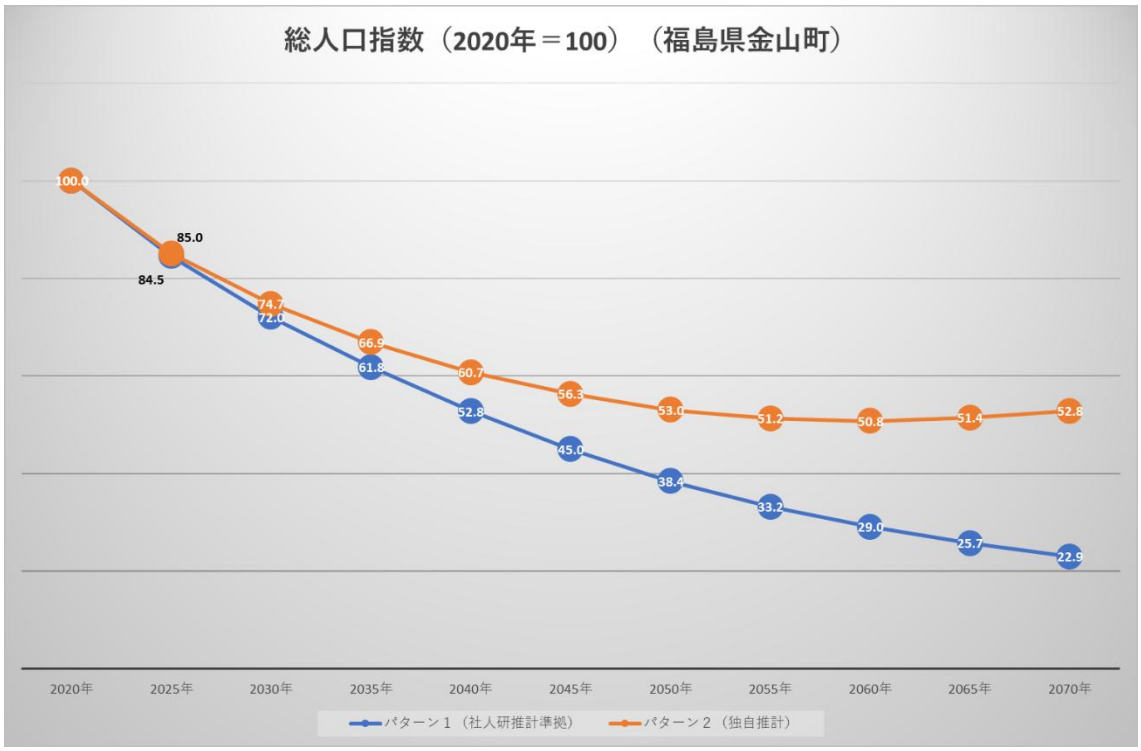
なお、この各々の条件を下記の仮定値を用いた将来人口の変化予測の条件として設定しています。

仮定値を用いた将来人口の変化予測

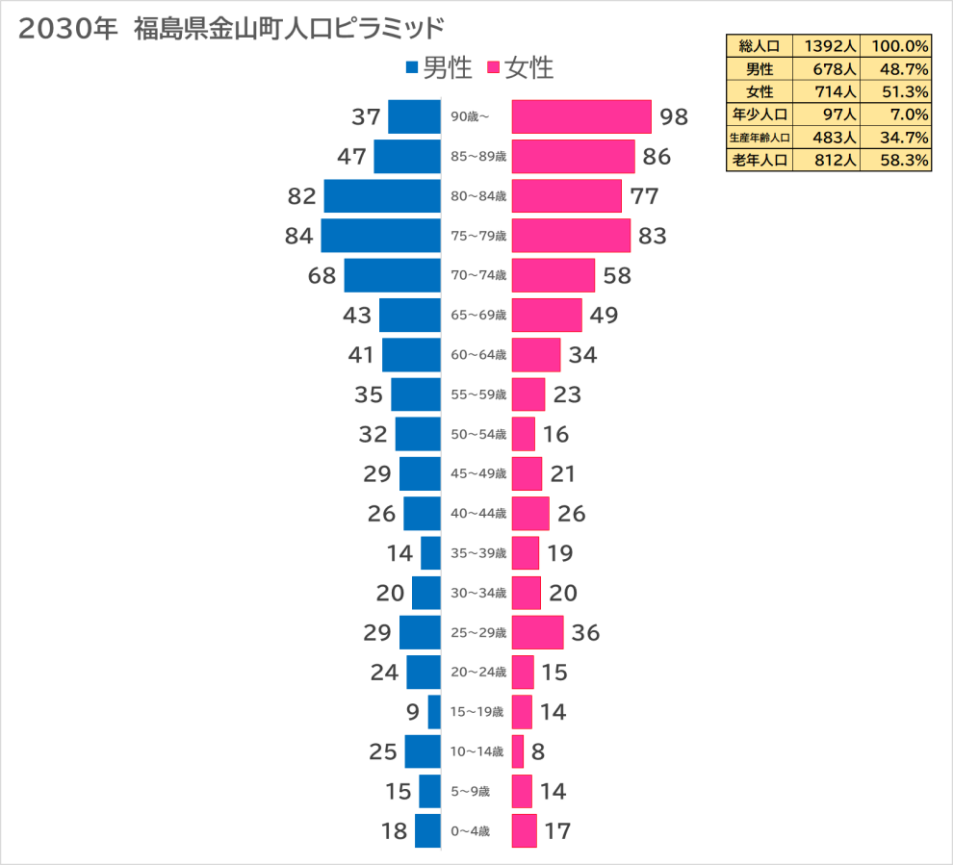


予測人口（人）		凡例	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
パターン２	金山町独自推計		1,862	1,584	1,391	1,246	1,131	1,048	987
パターン１	社人研推計準拠		1,862	1,574	1,341	1,150	982	837	714

【参考】仮定値を用いた２０７０年までの総人口指数予測

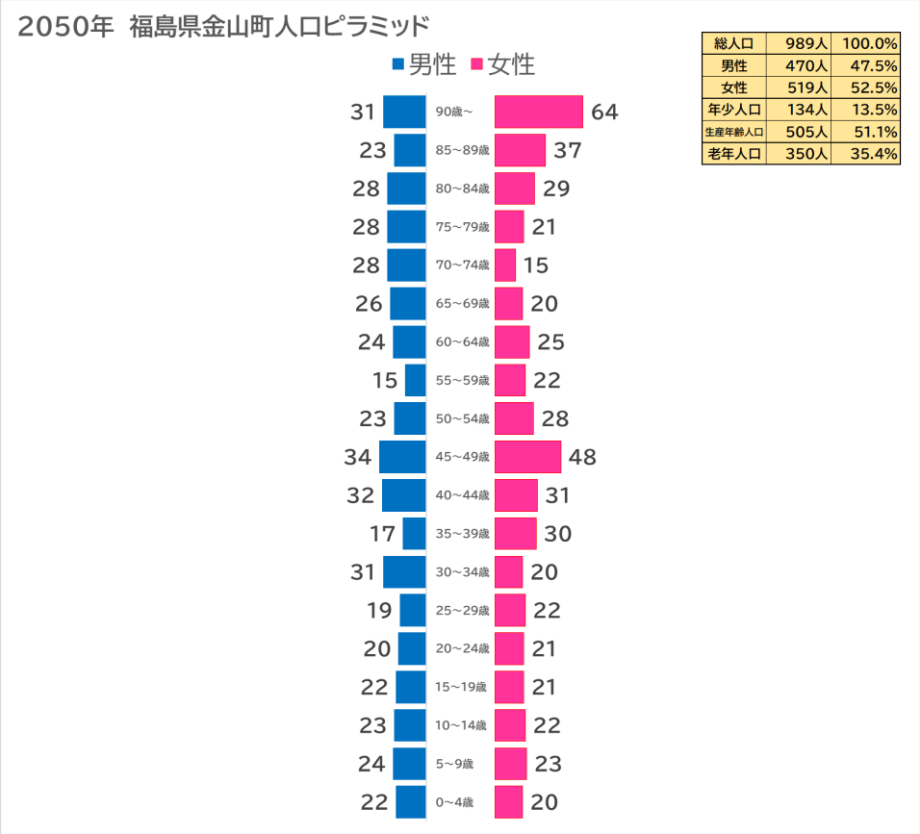


2030 年（令和 12 年）独自推計人口ピラミッド



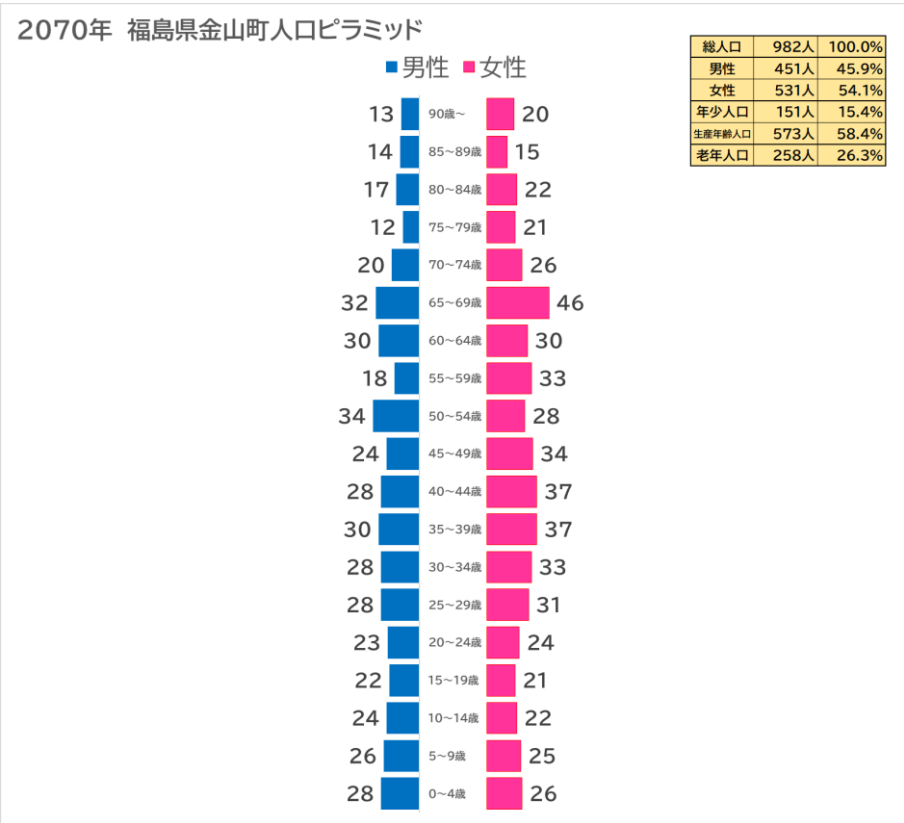
総人口	1392人	100.0%
男性	678人	48.7%
女性	714人	51.3%
年少人口	97人	7.0%
生産年齢人口	483人	34.7%
老年人口	812人	58.3%

2050 年（令和 32 年）独自推計人口ピラミッド



総人口	989人	100.0%
男性	470人	47.5%
女性	519人	52.5%
年少人口	134人	13.5%
生産年齢人口	505人	51.1%
老年人口	350人	35.4%

2070 年（令和 52 年）独自推計人口ピラミッド



総人口	982人	100.0%
男性	451人	45.9%
女性	531人	54.1%
年少人口	151人	15.4%
生産年齢人口	573人	58.4%
老年人口	258人	26.3%